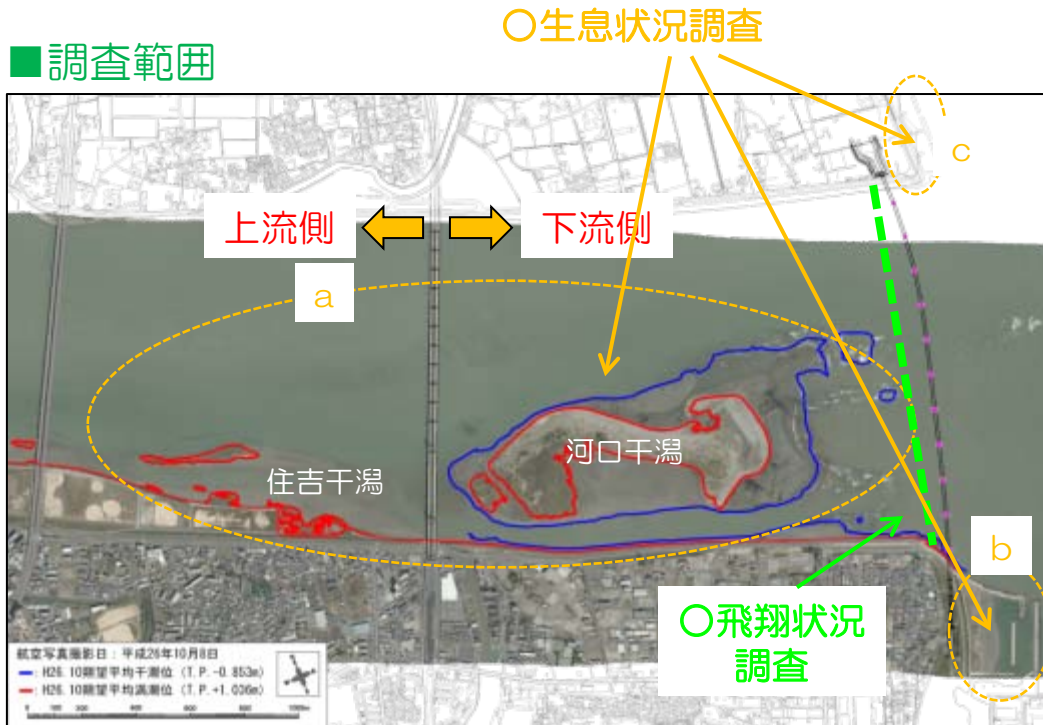


## ⑤鳥類調査（速報）

### ■調査範囲



### ■調査実施日

- ・平成26年9月9日
- ・平成27年1月20日
- ・平成27年4月22日
- ※別途、4月22日に昼間の飛行軌跡調査、  
4月18～19日に夜間の飛行軌跡調査、  
4月20～21日に夜間の生息状況調査を実施
- ・平成27年5月1日

### ■第5回環境部会(H27.2.24)で報告した内容

- ・目視観察とレーダー観測によって、吉野川渡河部を通過した種とその飛行位置を把握できることが確認された。
- ・9月の昼間のシギ・チドリ類は、右岸部の高度2m以下を多く飛行している状況を確認した。

# ■ 鳥類調査の結果(速報) ～調査結果～



鳥類調査(シギ・チドリ類)の結果を以下に示す。

- ①全20種のシギ・チドリ類を確認し、**ハマシギ、ダイゼン、シロチドリ、ミユビシギ**が比較的多いことが確認された。
- ②1月、4月、5月は、冬鳥のハマシギの個体数が多いことから、総個体数が増加することが確認された。

No.	和名	保護要件等				飛翔状況調査				生息状況調査			
		保護法	保存法	4次RL	徳島RL	H26.9	H27.1	H27.4	H27.5	H26.9	H27.1	H27.4	H27.5
1	ダイゼン					95	3	2	10	1	100	168	93
2	コチドリ										2		1
3	シロチドリ			VU	VU	11	7			71	53	11	7
4	マガチドリ					1				1		22	3
5	オソリハシギ			VU								11	
6	チュウシャクシギ							13	12	1		13	35
7	ホウロクシギ			VU	VU			3				2	
8	アアシシギ											3	
9	キアシシギ									82		1	6
10	ソリハシギ									1		4	
11	イソシギ					3	2				2	2	3
12	キョウジョシギ											3	
13	オハシギ					2						1	1
14	コハシギ				NT					30			
15	ミユビシギ					26		2		34	75	42	19
16	トウネ									1		11	
17	ウスラシギ				NT								1
18	サルハマシギ				NT							1	
19	ハマシギ			NT		2	76	43	243	1	412	554	623
20	キリアイ				VU					30			
-	シギ sp.					1	5			30			2
	20種	0	0	4	6	141	93	63	265	283	642	851	794

※飛翔状況調査は測線通過数を、生息状況調査は最大個体数をそれぞれ示す。

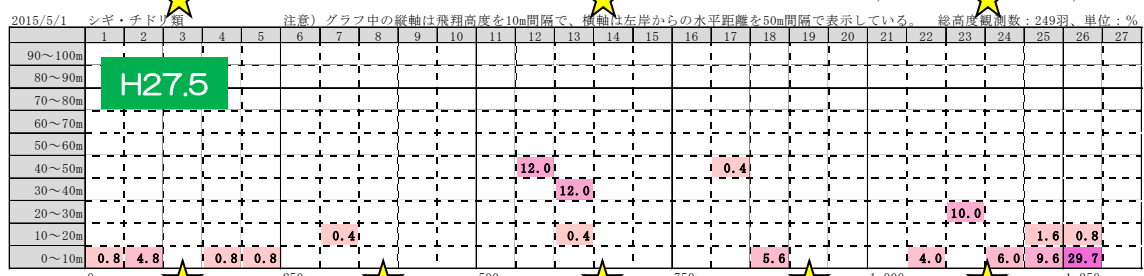
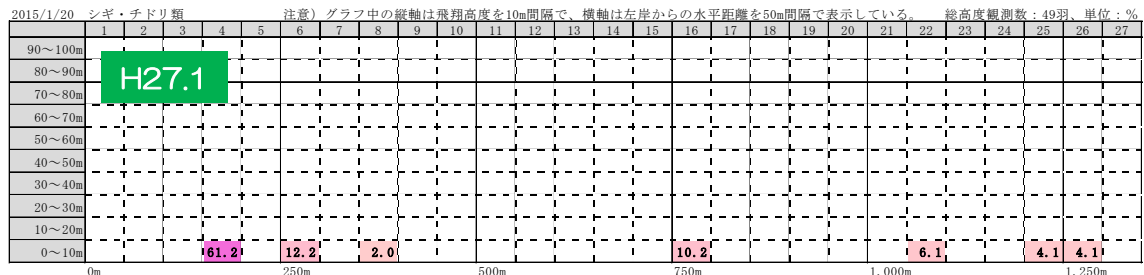
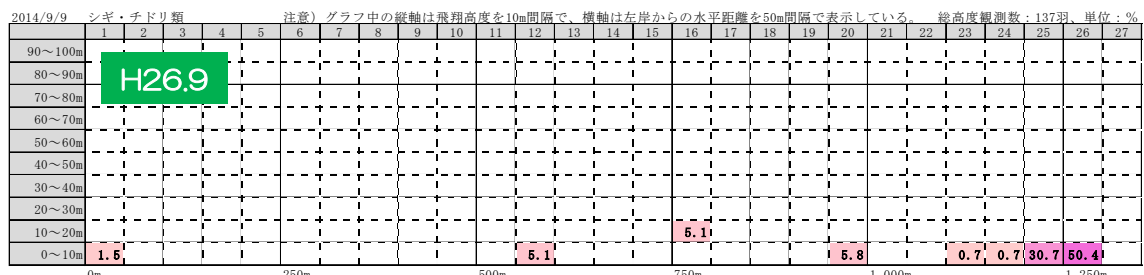
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

# ■ 鳥類調査の結果(速報) ～調査結果～



シギ・チドリ類は、H26.9とH27.1は2m以下を飛翔していたが、ボーリング用台船を設置してから**飛翔高度の上昇が確認**された。

調査の結果、ボーリング用台船が設置されてから、シギ・チドリ類の飛翔高度の上昇が確認された。これは、**台船を回避しながら飛翔**をしていたと考えられる。



★ ボーリング用台船が存在



# ■ 鳥類調査の結果(速報) ～調査結果～



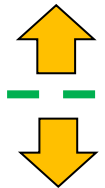
鳥類調査の結果について、シギ・チドリ類に関する全体の概要を以下に示す。

## ■ 生息状況調査(シギ・チドリ類)の概要

調査日	吉野川河口(a)		人工海浜(b)	小松海岸(c)
	上流側 (住吉干潟周辺)	下流側 (河口干潟周辺)		
H26.9.9	・干潮頃に採餌	・干潮頃に採餌 ・上流側より個体数が多い。	・満潮頃に休息 (主にダイゼン) ・干潮頃に個体数が減少	・干潮頃に休息 (主にヨチドリ)
H27.1.20				
H27.4.22	・干潮頃に採餌	・干潮頃に採餌 ・上流側より個体数が多い ・満潮頃に休息	・採餌・休息する個体は少ない	
H27.5.1	・干潮頃に採餌 ・干潮前に休息が見られた。	・干潮頃に採餌 ・上げ潮頃より、休息する個体が見られた。	・採餌・休息する個体は少ない	

## ■ 飛翔状況調査(シギ・チドリ類)の概要

計画線上を通過するシギ・チドリ類は、主に右岸低空(2m以下)の飛翔が多い。



ボーリング用台船設置

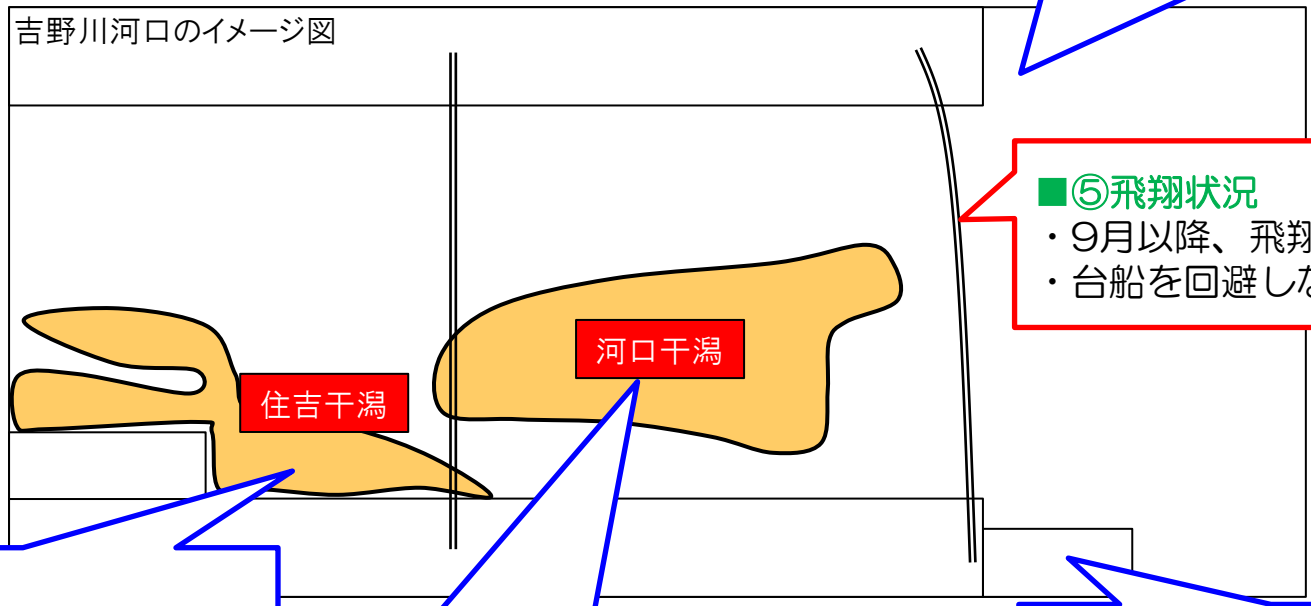


人工海浜で休息せず、代わりに河口干潟～住吉干潟で休息しており、**渡河部の飛翔が少なくなっている**。飛翔した場合、右岸低空(2m以下)の飛翔が比較的多い。

# ■ 鳥類調査の結果(速報) ~調査結果~



飛翔状況調査、生息状況調査結果を踏まえた吉野川河口に出現するシギ・チドリ類の概要について以下に示す。



■①住吉干潟

- ・主に採餌場・休息場
- ・河口干潟よりは少ない
- ・5月は採餌する固体が多かった

■②河口干潟

- ・主に採餌場・休息場
- ・9月に休息する個体は少なかった
- ・以降の1月、4月、5月は休息する個体が多かった

■④小松海岸

- ・9月に休息(主にシロチドリ)
- ・以降の1月、4月、5月は全体として少なかった。

■⑤飛翔状況

- ・9月以降、飛翔する個体数が減少
- ・台船を回避しながら飛翔

■③人工海浜

- ・9月に休息する個体が多かった
- ・以降の1月、4月、5月は全体として少なかった

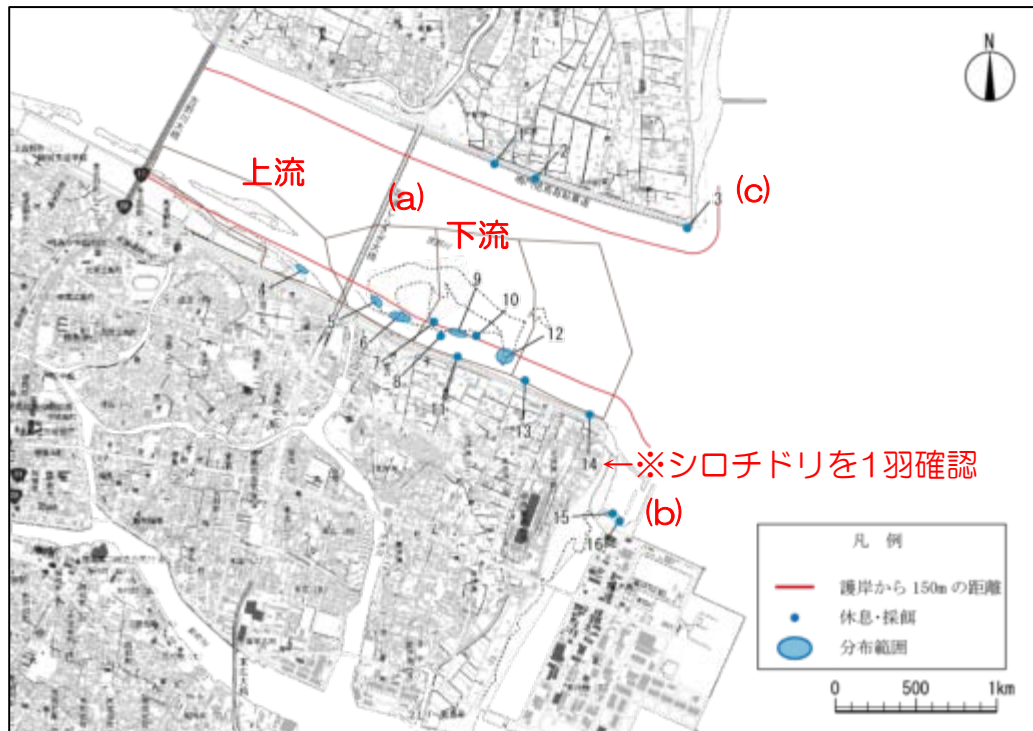


# ■ 鳥類調査の結果(速報) ～調査結果～

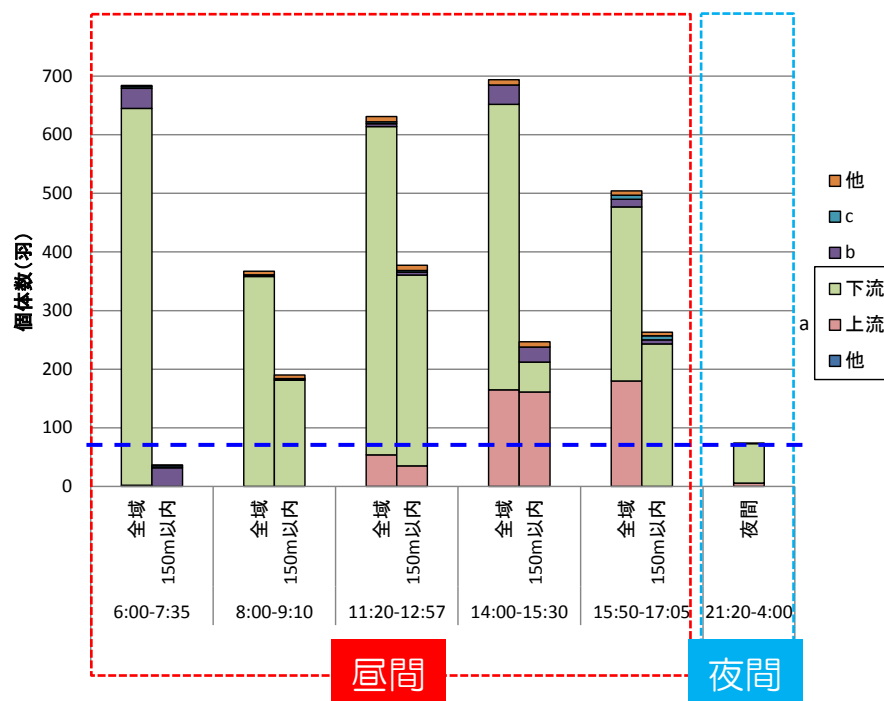


試行的に、H27.4に夜間調査を実施した結果を以下に示す。

- ① 観察地点より150m前後の範囲で鳥類を確認することが出来た。しかし、夜間は機材の限界によって視認性が制限され、150mの範囲に出現していた個体であっても全て確認できていない可能性がある。また、種の同定も困難であった。
- ② 合計101羽の鳥類が確認され、多くはシギ・チドリ類(74羽、全体の73.3%)であった。また探餌個体が多く、休息個体は少なかった。
- ③ 調査実施の背景にあるシロチドリは1羽確認されたが、同定できていない小型不明種や、目視確認出来なかった個体の中にも、生息していた可能性があると考えられる。
- ④ 昼間と夜間は同一条件でないため単純に比較できないことを前提に、昼間に比べて夜間の方が確認個体数が少ない結果となった。
- ⑤ 夜間の調査精度を向上するためには、調査員・サーモカメラを増やし、より長時間の調査を実施するといった対策が考えられる。



平成27年4月22日～23日(21:20～4:00)に干潟周辺を観察



昼間のデータから護岸より150mの範囲を抽出(赤枠)





## ■ 鳥類調査の結果(速報) ～調査結果～



鳥類調査について以下にまとめる。

- ①環境モニタリング調査計画に示した実施項目は、先の調査結果で示した様なデータを収集することが可能である。
- ②一方で、試行的に実施した夜間調査と飛翔軌跡の調査は、様々な課題があることが確認された。
- ③調査実施の背景にある夜間のシロチドリの生息・飛翔状況を把握することは困難であると考えられる。

### ■ 鳥類調査の昼間と夜間の課題

項目		昼間	夜間
生息状況調査		<div style="border: 2px dashed red; padding: 10px; background-color: #f0f0f0;"> <div style="background-color: red; color: white; padding: 5px; display: inline-block;">環境モニタリング調査の実施項目</div> </div>	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 5px; display: inline-block; font-weight: bold;">試行的に実施</div> <b>【課題】</b> ・機材性能の限界によって観察範囲と視認性が制限される ・調査員による種同定と個体数の把握が困難
飛翔状況調査	高度観測及び吉野川河口の出入り (※観測レダ-縦回し)		<b>【課題】</b> ・調査員による種同定と個体数の把握が困難
	河口全体の飛翔軌跡 (※観測レダ-横回し)		<b>【課題】</b> ・種名と個体数の把握は、調査員が目視確認できる範囲に限定 ・鳥類の飛翔が多く、連続観測によってデータ量が膨大になる。

注意) 環境モニタリング調査計画の飛翔状況調査で示した飛翔経路は、吉野川河口の出入りの経路のことを指しており、吉野川河口全体の飛翔軌跡とは異なる。